

科目「防疫薬総合管理」—世界を先導する害虫制御と防疫薬—

開講機関：日本リスクマネージャネットワーク
／早稲田大学規範科学総合研究所
連携機関：日本環境動物昆虫学会

1. 教育活動の趣旨

本科目には「世界を先導する害虫制御と防疫薬」という大きな副題を掲げました。その理由について説明します。

- 1) 身近な殺虫剤である渦巻き蚊取り線香、電気蚊取りマット、電気蚊取り液は、日本の会社（K社、E社、F社など）の発明品で、これが世界中（主にアジア、アフリカ、中南米など）に広がった。
- 2) エアゾール技術の発明はアメリカの会社であるが、この技術を基に、ハエ・蚊用エアゾール、ゴキブリ用エアゾール、アリ用エアゾール、ダニ用エアゾール、クモ用エアゾール、ハチ用エアゾール（ハチノック）、ヘビ用エアゾール（ハブノック）など、多種多様な殺虫エアゾールが開発され市販されている。このように多種多様な殺虫エアゾールを開発し、実用化した市場は諸外国にはない。
- 3) また、現在、マラリア対策用として、WHOなどで高く評価されており、米国 Tech Museum 賞などを受賞した、マラリア蚊防除用の薬剤含浸蚊帳（オリセットネット）も日本の化学会社（S社）の技術で開発された。
- 4) このような多種多様な発明、開発を可能にしたのは、これらの殺虫剤に使われている殺虫成分（ピレスロイド殺虫剤）の多彩さがその基礎にある。これらの殺虫成分の発明のほとんどは日本の化学会社（S社）である。ピレスロイド化合物に関しては、その種類、量ともに、わが国（S社）は、世界の生産国である。

これらの実際の発明者、開発者、あるいは現在も開発に携わっている講師から直接的な講義を聴くことができる特徴的なセミナーであると言える。

2. 2010年度開講実績

昨年度の開講機関は東京工業大学社会人教育院で、東京工業大学田町キャンパスで開講した。受講者は20名であった。

本年度は、開講機関が日本リスクマネージャネットワーク／早稲田大学規範科学総合研究所に変わり、大阪府環境農林水産総合研究所で開講した。後期（2010年9月27日～2011年1月24日：毎週月曜日）、15回の講義に15名の受講者があり、1月24日に予定通り閉講した。

3. 2011年度講義内容

2011年度も、後期に大阪府環境農林水産総合研究所で開講する。内容は大筋で2010年度と同

じであるが、見学を取り入れたり、防除器具の実物を見せるなど、visual な講義形式に出来ないかと考えている。

4. 抱負や課題

2010 年度は15名の受講者があったが、これらの受講者は、そのほとんどが殺虫剤メーカー、あるいは害虫防除会社に勤務し、業務上必要とする方たちである。社会人セミナー「知の市場」の趣旨からいえば、業務とは関係ないが興味があるという一般市民にも受講してもらいたいと思う。その為には、まず今の「防疫薬総合管理」という科目名を一般市民にも理解できる表現に変更すべきである。一般市民は「ボーエキヤク」と聞くと、ほとんどは「貿易役」をイメージする。それで、科目名を「身近な生活・環境害虫防除」、そして副題を「世界をリードする殺虫剤と害虫防除技術」に変更したいと思っている。その上で、市役所、市立図書館、博物館などの生涯学習支援担当部門や、消費者センター、シルバーセンターなどに PR しようと考えている。そして、できれば20名以上の受講者を得たい。

また、講義の進め方を質疑応答を増やした対話方式にするなどの工夫をしたい。また、関連する開発研究所の見学なども考えられる。これも1コマの授業としてはどうかと考えている。

以上